

ナースイン花びりか&介護老人保健施設オアシス21

症 例 概 要 入所者：男性 90歳代 要介護度 1

経過：妻が当施設入所にて、時々面会に来られていたが、徐々に痩せて歩行もふらつきが目立つようになりフレイル状態を発見。全身の皮下出血の跡が広範囲で#1病状は重篤であった。また、理解力低下あり運転していたが交通事故も起こしその処理ができず困っていた。当施設への入所案内をし食事改善や体力回復を目指した。親身な対応を多職種と当グループ全体で関わりをもった結果、病状回復され身の回りの困りことも含め解決した事例。

内 容

子供はなく夫婦2人暮らしを長年していた。そんな中、R2年4月に妻が転倒骨折にて、花川病院リハビリ入院後、オアシス21へ入所となっていた。独居となった利用者さんは、コロナ禍で面会もままならず、寂しい思いでいっぱいであった。自身も特発性血小板減少性紫斑病を患っており内出血が多発するなど体調がすぐれず臥床がちであった。

唯一の外出がオアシス21に入所している妻へゼリーを差し入れする事だったが、徐々に痩せてふらふらしている姿をオアシス相談員、看護師らが見て、フレイル発見となり当施設へ生活リハビリのご案内をし、入所となった。

ご本人より「だんだん痩せてフラフラする。からだがしんどい。」と車の運転をしていたが人身事故を起こし、その処理もできず困っていたことが解かり、高齢夫婦世帯の生活の支えが必要であることを確認した。

チームでカンファレンスを開き、まず食事を美味しく食べて頂こうと食事面からアプローチを図った。また、るい瘦著明にて、栄養状態が高リスクになっており、STや管理栄養士などオアシス21褥瘡対策委員会にて栄養対策を重点的に図った。

- ・STは食べ方でムセが強いため食事の形態を食べやすいものへ変更。
- ・栄養士は、食事に高カロリーゼリーをつけて体重増加を図った。
- ・看護師は在宅主治医や歯科医と連携をとり、抜歯を実施。その後義歯作成。
- ・介護は飲水量がすくなく、半介助にて脱水予防を図った。

多職種で関わった結果、食事が少しずつ食べられるようになり、持病だった血小板値も改善され元気

がでてきた。

・相談員は甥っ子と連絡をし、事故処理や入院費滞納などのトラブル処理を依頼。

悩んでいた金銭面での心配事が解決され、前向きな姿勢になった。

オアシス退所後、看多機ナースイン利用では、太鼓を通して妻へエールをおくり、夏祭りでは太鼓隊として北海盆踊りを盛大に盛り上げていただき、やりがいを見つけ笑顔を取り戻すことができた。

今回、ご家族の面会時にフレイルを発見でき、その後も高齢夫婦ともに当グループで最期まで看させていただくよう計画している。危機を脱し心身ともに元気になっていく姿は私達も励みになり、グループ全体で親身なケアを実践できた事例を報告いたします。